

# 森林認証について杉山町長に聞く 「日本の林業が未来に向けて

# 持続的に発展していくために」



静岡県内で先陣を切ってFSC森林認証を取得した川根本町。認証申請に踏み切った動機は。この認証が、川根本町林業界にどのような効果をもたらすのか。なにが変わるのか。今後、どのように町内外に浸透させていくのか。1 林業家としてもグループ参加している杉山町長に、森林認証の「これから」について聞いた。

「早速ですが、「FSC森林認証」という、一般的には馴染みのない言葉のように思いますが、どのような制度なのか、ごく簡単に説明をお願いします。

簡単に言えば、森林認証制度とは、森林が適切に管理されていることを第三者機関が客観的に評価し、認証するというものです。FSCはその一つの機関で国際認証です。

「県内では初の認証取得というのですが、取得しようと考えたきっかけは何ですか。」

町内の大部分が森林の川根本町は、森林を適切に管理する責務がある。認証制度の導入過程や運用で、地域としても林家としても森林管理の品質や能力を高めたかったんです。

また、今後流域全体で連携して「森づくり」を行っていかねければ森林は守っていけないが、認証はその時の共通基準となりえます。山側からすれば、こうして世界に通用する森林を守っていますよという説明責任を果たせる。下流側からすれば、それなら森づくりを応援しましょう、その森からの木材を使いましょう、といった連携

や協力が進むだろうと考えました。――「県内で初」の取得は、他市町に向けた大きなアピールになりましたね。

森林のある市町には、持続的な森林管理能力の向上の手段として、下流側の市町には、上流側の森林に対する考えが明確に伝わると思っています。――森林認証には、国内の認証機関もあると聞きましたが、なぜ国際的な機関であるFSCを選んだのですか。

森林管理能力の向上や、説明責任を果たすために導入するので、から、制度の品質や、木材の流通実体から国際性のあるものということで、FSCを選択しました。――取得には事業体が単独で取得する「単独認証」と、グループで取得する「グループ認証」があるのですが、川根本町の選択はグループ認証でした。その理由をお聞かせください。

森づくりは行政と民間が地域一体となって取り組まなければ効果

的ではありません。

また、現在の林業状況や木材動向も考えると、個人や会社単独では経費負担もたいへんで、グループ全体で負担すれば個々の負担は軽減され、全町的な広がりも期待されるからです。

「森林認証は、取得したら終わりではないですね？」

認証の有効期限は5年間で、その間、毎年監査がおこなわれます。5年後に今までの実績を考えて、また新たな審査が行われます。FSCが重視しているのは、計画内容とモニタリング結果の公表であり、管理の透明性なんです。

「毎年、監査を受け続けることは「負担」ではないですか？」

たしかに、経費的には負担がありますが、グループ認証ですから費用の部分は軽減できます。

認証機関も、すべての原則と規準を完全に満たすことを求めているわけではありません。毎年目標とする森林管理に向かって少しずつでも改善していくことが評価されます。最初から程度の高い森林の状態と管理を求めているわけではないのです。地域や経営の実情に応じて柔軟な対応も認めています。

「今回、賛同しグループになった皆さんの反応はどうでしょうか。」

皆さん、熱心に林業や森林と向き合っておられる方ばかりで、この認証取得を初めて説明した昨年、非常に興味を持っていただきました。それぞれ、どうしたらこの状況を動かすことができるか、本来の森の恵みを活かす森林管理の方法とは、時代の要請にあった林業経営とは、木材の価値を高め消費を拡大するには、など考えていたので、今回の認証を契機に課題改善の足がかりになればと考えています。

また、ともに山を守っていくという意識が共有できました。私も森を守っていかなければならない一人として、一個人としても参加しました。

「FSC森林認証で忘れてはなら

ないのが「COC認証」だと思えます。なぜならば、せっかくFSC森林認証の森から搬出された木材も、流通途中の業者がCOC認証を取得していないと「FSCのラベル」をつけることができないからです。他の森林との違いを明確に打ち出すため、COC認証を取得した業者を開拓していく必要があるのではないですか。

森林から収穫された木材が加工され、消費者まで正しく届けられているかなどを、加工工場などで審査するのがCOC認証です。森林管理認証と加工・流通認証が合わさって、消費者まで認証材が届けられます。そのためにCOC認証の取得を木材業者や工務店など積極的に働きかけていきます。まずは環境にも配慮した世界にも通用する森づくりから始めます。

水と森の番人として、川根本町

「ほかに町長がお考えになる「今後の課題」などありますか？」

現在、森林経営も木材・流通業界も厳しい環境が続いています。そうした状況の中で、多少なりとも経費負担を伴う認証制度を普及できるか。特に木材や製品が流通する前の初期段階での負担感を軽減できるかが課題です。

「最後に、この森林認証を今後町内にどのように普及・定着させていくか、考えをお聞かせください。」

今後、この制度の持つ役割、考え方を町内外に深く浸透させ、グループの加入者を増やしていく行動をとらなければなりません。そのためには、町民の皆さんに、森林認証とは何かをご理解いただくことから始めると考えます。基本的には難しいことではなく、先人達が深く森と関わって、森に感謝し森と上手に付き合っていた頃に戻すということなんですけどね。

「本日はお忙しいところをありがとうございました。」



FSC森林認証の現地審査（昨年9月）